

房室中隔欠損

房室中隔欠損とは？

左側房室弁（僧帽弁）と右側房室弁（三尖弁）の付着部位の間にある房室中隔が欠損する病気です。完全型房室中隔欠損では、左右の房室弁は分割されず共通房室弁となり、心房中隔（一次孔）と心室中隔（流入部）が欠損します。不完全型房室中隔欠損では、左右の房室弁は分割されますが左側房室弁（僧帽弁）に亀裂があり、心房中隔一次孔欠損はあって心室中隔欠損はありません。ダウン（Down）症候群に合併しやすいことが知られています。

どのような症状が起きますか

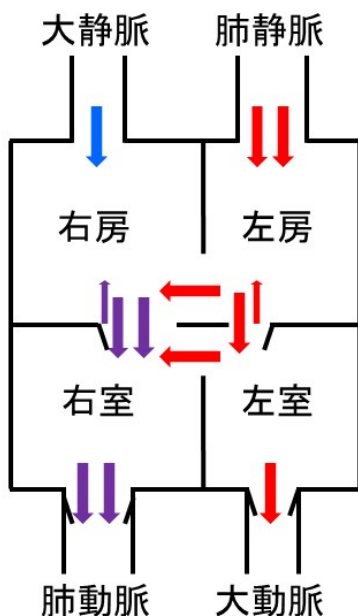
完全型では、乳児期早期に多呼吸、哺乳不良、体重増加不良などうっ血性心不全の症状を呈します。不完全型の多くは、幼児・学童期に心雑音や心電図異常で発見されます。

どのように診断しますか

胸部レントゲン写真は心拡大と肺血流増加を認め、心電図では左軸偏位と呼ばれる異常が特徴です。心エコー検査で確定診断でき、病型分類や合併疾患の診断も可能です。手術の前には、心臓カテーテル検査も必要になります。

どのように治療しますか

心不全に対しては、利尿剤などの薬剤を用います。ほぼ全例に対し、欠損孔の閉鎖と僧帽弁の亀裂の縫合による修復手術を行います。肺高血圧を認める場合は、乳児期早期に修復手術が必要です。修復手術の前に肺動脈を狭める絞扼術を行ったり、心室がアンバランスな例では段階的なフォンタン手術を行ったりすることがあります。



三浦 大：房室中隔欠損，

三浦 大 編：はじめて学ぶ小児循環器，

P 57，診断と治療社，2015. より改変して引用.